

初めてのラグビーボランティア報告

2004年6月13日 IN 仙台スタジアム

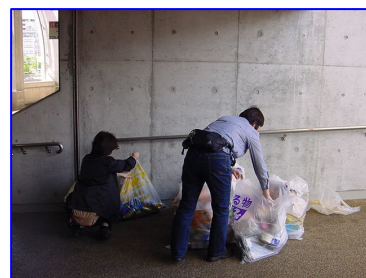


はっきりしなかった天気が、ゲーム終了時には快晴になり、それはボランティアに参加した私たちの心の変化のように感じられまし、参加して気持ちが暖くなる、そんな一日でした。

「SV2004～スポーツボランティア2004」としての初めての活動は、宮城県ラグビーフットボール協会の80周年記念招待試合のサポートとなりました。活動する場が仙台スタジアムであったことは、参加した19名の仲間にとっては幸いでした。集合は9時半、ここでボランティア用の腕章と簡単な説明をうけて北口ゲート前に移動、自主的に分担をきめて開門にそなえるとともに、灰皿・ゴミ袋の準備を行いました。

当日のゲームは11時から、仙台ゆうわくと気仙沼不惑というチームによる試合があり、13時からは招待試合として大学ラグビーでは強豪である「関東学院と法政大学」の試合、11時半の段階で待っていた観客が入場したあと、入場ピークの前に交代で昼食をとりました。いただいた弁当のご飯が紅白だったのは、何か縁起ものの意味があったのかもしれませんが。

ゲートでは、全員が「こんにちは」「いらっしゃいませ」の声をかけ、チケットのもぎり、プログラムの配布、案内(座席の指定に関するものと売店についての質問が中心でした)を担当しました。天候が良くなり気温が上がり、コンコースを吹く風が気持ちよく感じます。



最初のゲームはきっと学生や社会人ラグビーのOBの方々が参加していたのではないのでしょうか。高齢の方では80歳を越える方もおり、その元気さはラグビーによって鍛えられたものかもしれません。さすがに大学、特に大差をつけて勝利した関東学院のプレーヤーのフットワークはさすが、と素人の私たちをもうならせせるものがありました。ボランティアの中には初めてラグビーを生で観た方も多く、軽い興奮の中で、楽しかったと語ってくれました。ごく普通の人に参加するボランティア、もしかするとスポーツと地域(市民)をつなぐ方法として、ともかく関わってみて、その楽しさを語る、ということは原点であるように思います。

当日の観客数は1,800名ほど、せっかくのいい試合、いい環境、もっとたくさんの人に観て欲しいと思います。



私たちがそうであったように、誰にもはじめてがあります。かんたんなルール説明のハンドブックや、ちょっとした市民参加によるショーアップ、こどもたちの遊びなどがあれば、種目ごとではなく、スタジアムでのイベントの紹介がもっと積極的に実施されたら、何より、スタジアムの運営に、基本的なルールの統一ができたなら(たとえばごみの捨て方ひとつにしても)、少しは観客にやさしくなるのではないのでしょうか。

最後にラグビー協会の方から挨拶をいただきました。「丁寧な挨拶と誘導、清掃のだんどり」に対し、きちんと見て評価してくれました。ボランティアとして観客の方々に楽しんでいただくためには、自分たち自身が楽しくなければいけません。楽しいという言葉は「楽=らく」と一緒ではないのです。

スタジアムの外は夏の日差しでした。ボランティア活動の象徴の場である「花みずき」のそばで、この日を忘れなために記念の写真を撮りました。そして、その日が終わったのではなく、新しい始まりということを感じつつ手をふって仲間たちと別れました。

< 参考ラグビー関連ホームページ >

日本ラグビーフットボール協会 <http://www.rugby-japan.jp/>

J'SPORTS ラグビー <http://www.jsports.co.jp/tv/rugby/>

ラグビーのルール <http://www.toyota-shokki.co.jp/sports/rugby/rules/index.html>



ゲームが終わったらその瞬間に敵も味方もない仲間「ノーサイド」という、言葉の響きが好きです。